



Title	当院の現状報告等
Author(s)	永井, 崇之
Citation	2025年度ストップ結核パートナーシップ関西 第13回ワークショップ「これからの結核対策を考える : 新しい退院基準にどう備えるか」. 2026, p. 11-15
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/104104
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

当院の現状報告等

大阪はびきの医療センター
感染症内科 永井崇之



1

大阪はびきの医療センター沿革

1952年	大阪府立結核療養所羽曳野病院開設	320床
1957年	病床数	1,000床
1976年	大阪府立羽曳野病院へ改称、結核702床、一般病床208床	
1986年	病床数	結核432床、一般568床
1997年	多剤耐性結核病棟整備	
1998年	病床数	結核320床、一般566床
2003年	呼吸器アレルギー医療センターに改称	結核200床
2008年	病床数	結核150床
2011年		結核100床
2015年		結核 68床
2016年	病床数：	結核 60床、 一般360床、 感染症病床(第2種) 6床 新生児特定集中治療室(NICU) (3床)
2023年	一般354床、	結核45床(第2種6床)



2

2025年1月～9月結核症診療実績

二次医療圏	保健所	外来患者(人)	入院患者(人)
豊能	茨木	1	1
	吹田市	1	3
	豊中市	0	1
三島	茨木	1	1
北河内	守口	0	1
	寝屋川市	0	1
中河内	東大阪市	3	8
	八尾市	6	7
南河内	藤井寺	13	22
	富田林	7	10
大阪市	大阪市	10	46
堺市	堺市	0	20
泉州	和泉	0	6
	岸和田	1	7
	泉佐野	4	10
他県	奈良、和歌山、兵庫	1	5
計		48	149

3

2025年1月～9月入院対応結核患者

		入院勧告あり 107人	入院勧告なし 42人
	年齢	75±13歳	75±15歳
転帰	軽快	55(51.4%)	33(78.6%)
	転院	32(29.9%)	6(14.3%)
	死亡	19(17.8%)	3(7.1%)
	事故退院	1	
入院期間	日数	27～163日	7～88日
	平均	75±22日	40±19日

4

2025年1月～9月入院勧告結核患者(87人)

RFP耐性判明までの日数

耐性遺伝子判明まで3日以内; 72人(82.7%)

塗抹陰性検体:13検体

塗抹陽性検体:59検体

PCR陰性のため耐性遺伝子判定不可:15人

培養からの耐性検査結果判明までは

28日～56日(平均44日)

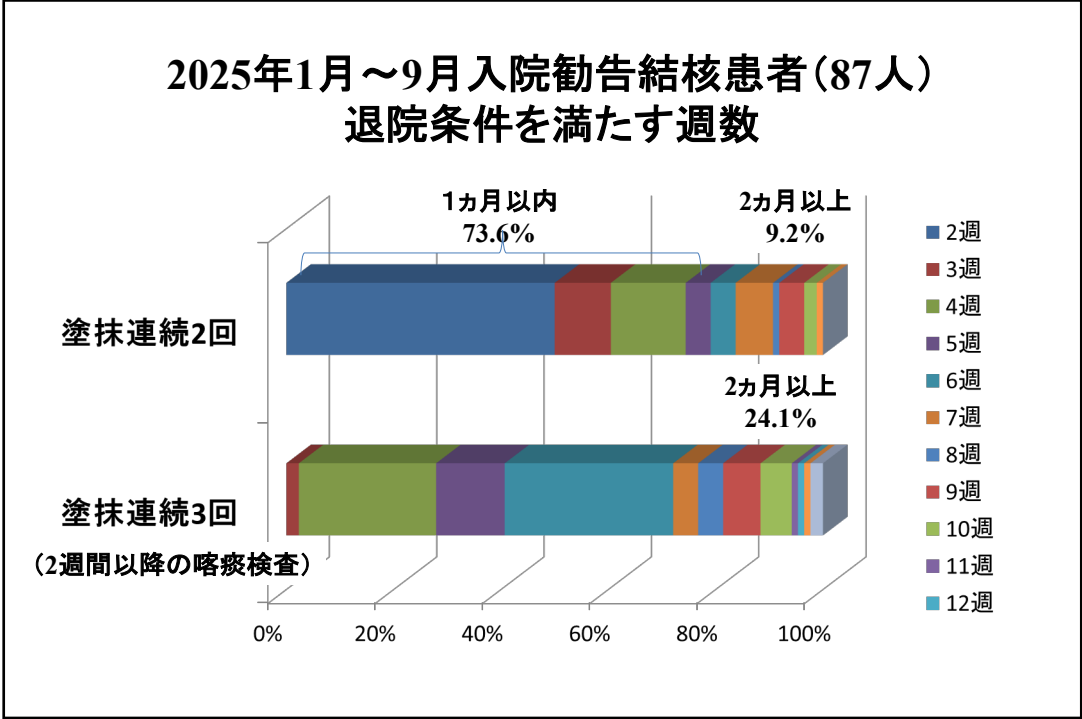
5

2025年1月～9月入院勧告結核患者(87人)

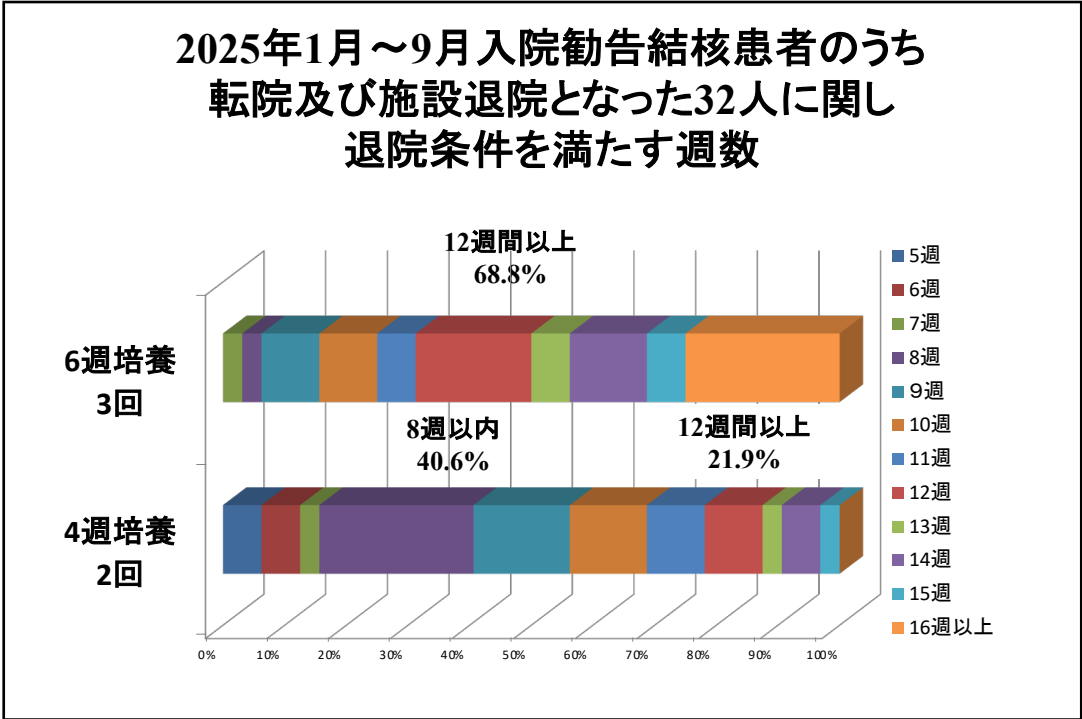
入院期間の比較

入院期間(日)			
退院先	自宅(53人)		転院、施設(32人) (急性期病院への転院2名を除く)
	67±18		90±21
年齢	19～70歳(29人)		71歳以上(58人)
	66±24		79±20
最大塗抹	1+(43人)	2+(25人)	3+(18人)
	70±17	78±30	80±22
胸部X線 病型	空洞あり(36人)		空洞なし(51人)
	86±24		67±18

6



7



8

まとめ

1) 適切な治療が2週間以上なされ、治療により症状が軽快ないしまたは消失し
画像検査及び細菌学的検査結果が改善傾向にあることが確認されている

2) ~~ア~~ RFP感性が確認されてRFPが使用可能であり、 82.70%

インフルコロナ等感染症あるいは一般疾患同様
元気な人はおうちで、そうでない人は公費でゆっくり療養
過剰な人権侵害からの脱却 JAPANルール

外不等人患者脱却ははじ

4) BCG未接種かつLTBI治療を受けていない乳幼児(6歳未満)との
恒常的な接触がない

充床率低下による経営問題...
(入院期間の短縮、各医療圏での対応)

9



地方独立行政法人
大阪府立病院機構

本日は発表の機会を
ありがとうございました



10